

短 報

## 国際看護人材開発研究に基礎づけられた 聖路加国際大学の大学院修士・博士課程での 国際看護学の発展過程と今後の展開

田代 順子<sup>1)</sup> 長松 康子<sup>1)</sup>

### Progress of Global Health Nursing at Graduate Programs, St. Luke's International University with Studies on Human Resource Development in Global Health Nursing

Junko TASHIRO, RN, Ph.D<sup>1)</sup> Yasuko NAGAMATSU, RN, PHN, MS, Ph.D<sup>1)</sup>

#### [Abstract]

In 2005, the Global Health Nursing concentration within the master's program at our institution commenced. Now, in 2014, this program is ten years old. Completing the Global Health Nursing concentration have been 12 master's students and five doctoral students. This report describes the development of program and curriculum of Global Health Nursing along with three studies of global human resource development. Firstly, we conducted a study on competencies of nurses working in international collaboration. The competencies were categorized into basic knowledge and skills and a specialized one. Based on these findings, we designed an undergraduate and a graduate program of Global Health Nursing. Secondly, we conducted curriculum development for Global Health Nursing in Japan. Based on this study, we refined the graduate program. Thirdly, we conducted a study on the development of a 'carrier-pass' model of global health nurses in order to consistently obtain them. We determined that the carrier of global health nurse professionals should be developed based on academic degree. Further educational programs supporting global health professionals will be needed in order to contribute to the actualization of health for all in the world.

[Key words] graduate education, global health nursing, program development study on human resource development in nursing

#### [要 旨]

2005年度に大学院に国際看護学を開講し10年目を迎え、修士12名、博士5名が修了した。本学の大学院カリキュラムは段階的な3つの国際医療協力研究助成を得て行った研究成果を基盤とし発展してきた。第1は、国際看護協力人材のコンピテンシー研究で、基礎的知識と技能と専門的知識と技能が抽出され、これら知識と技能は大学の学部から大学院までの一貫教育プログラム開発を可能にした。第2は、国際看護人材開発のカリキュラム研究で、本学カリキュラムの内容を充実させることができた。第3は、国際保健人材の継続的確保のためのキャリアパス研究で、国際看護専門職の若手、中堅は育成されているが、国際機関で活動できるエキスパートは輩出できていない。高等教育機関を拠点に国際看護人材も段階的にキャリア開発できるキャリアパスが可能と考えられた。今後も、すべての人々の健康の推進できる国際看護専門職のキャリア開発の教育開発が必要である。

1) 聖路加国際大学 保健医療福祉連携における看護領域, 国際看護学 St. Luke's International University, Nursing in Health Care and Social Services, Global Health Nursing

〔キーワード〕 大学院教育, 国際看護学, プログラム開発, 国際看護人材開発研究

## I. はじめに

2005年度に国際看護学を大学院修士・博士課程において開講し、2014年度で10年目を迎え、これまでに、12名の修士と5名の博士が修了した。大学院での国際看護学の開講は、1996年度から学部で開始した、国際看護から、さらに日本のグローバル・ヘルスの看護人材育成強化の一環として、看護国際協働活動に貢献できる人材を育成するものであった。2007年度の大学紀要No.33<sup>1)</sup>で、「修士課程国際看護学開講の経緯と学部の一貫コース展開」として報告した。その後、博士課程の国際看護学を開講し、Evidence-basedの国際看護協働活動のできる看護研究者教育を提供してきた。大学院での国際看護学開講から10年目の今、本学の国際看護学のカリキュラムの構成と展開を記述し、現在の課題と今後の展望を行う。

## II. 国際看護学カリキュラム開発研究と本学カリキュラム開発

本学の国際看護学カリキュラムは、2002-2004年に国際医療協力研究委託費による助成を受け、著者らが行ってきた国際看護技術移転に必要な能力研究<sup>2)</sup>成果が基盤となった。さらに、国際看護協力人材開発のためのカリキュラム開発研究<sup>3)</sup>や、国際看護協力人材のキャリア開発研究<sup>4)</sup>の機会が与えられ、広く、日本における国際看護協働人材育成プログラムとしての国際看護学の教育が開発された。

### 1. 国際看護専門職としてのコンピテンシーと教育プログラム開発

国際看護専門職としての技術移転活動あるいは協働活動においてのコンピテンシーは、開発途上国で1年以上の協働活動をした看護職計54名から、必要とされた能力に関する面接調査で抽出された。その能力は、基礎的知識と技能、専門的知識と技能にカテゴリー化された(表1)。これら専門的能力は、2段階に整理でき、第1段階の専門的能力は、海外で初めて協働プロジェクトに参加し、既存の情報から計画を立案し、実施・評価の過程を展開できる段階であり、第2段階は、海外での協働経験を複数回もち、プロジェクトチームの中でリーダーシップをとれる能力と考えられた。これらの教育プログラムの提言として、第1段階は修士課程の教育プログラムで能力開発でき、第2段階は博士課程の教育プログラムを提言した。同時に、能力開発のための大学院国際看護学

表1 国際協働に必要な能力と教育プログラム

国際協働に必要な能力 (コンピテンシー)	教育プログラム
基礎的知識と技能： 文化的理解と適応 応用力 語学力・コミュニケーション力 国際保健・看護入門の知識・理解	学部： 異文化理解と経験 語学, コミュニケーション力 国際保健・看護入門の知識
専門領域の技能 日本での臨地経験 海外インターン, 海外青年協力隊, 海外ボランティア	
専門的知識と技能： 情報収集力 問題分析力・調査研究力 計画・企画力	修士課程： 国際看護専門職コース 国際看護学特論, 演習, 看護研究
問題解決・調整力 マネージメント力 ネットワーキング力 根拠基盤の評価力→研究マネージメント	博士課程： 国際看護研究者コース 国際看護特論 国際看護演習 特別研究者

のプログラム試案を提供した(表1)。

### 2. 国際看護専門職の修士課程カリキュラム開発研究と本学のカリキュラム

国際看護専門職育成のためのカリキュラムは、日本の大学院で2008年にすでに修士課程国際看護学系の専攻を持つ16大学院の公表されているカリキュラム情報の統合により行った。国際看護学のカリキュラムは、大学により助産学、地域看護、災害看護等と多様であり、統合領域の性格を持ち、各大学の国際看護学担当の専門性がカリキュラムの内容に反映していることが考えられた。研究成果として、カリキュラム概要図を作成した(図1)。

本学大学院の国際看護学のカリキュラムは、研究成果と本学大学院のカリキュラムの共通枠組みで、科目のシラバスに発展させた。本学国際看護学のカリキュラム編成の考え方は、1) 国際看護専門職が働く領域は広域であることを踏まえ、多様な看護領域の多様な海外経験を持つ入学生を受け入れること、2) 国際看護学が多様な看護領域にわたり、焦点を当てている国・フィールドも多様であるので、入学生の背景と研究テーマあるいはキャリアプランを尊重し、相談の上で履修計画を立て、3) 学生が興味を持っている焦点国の健康問題を中心に進めること、を基盤とし、学生自身が主体的に焦点国の保健問題の改善に向けた協働活動ができるカリキュラムとすることとした。修士課程の科目と履修時期、そのコース概要を進度に沿って一覧した(表2)。履修進度は、1年次前期において、特論・演習Iで、WHOあるいは国際連合(United Nation = UN)の政策の動向の理解を基に、入学生の焦点を当てる国概況と国レベルの健康の

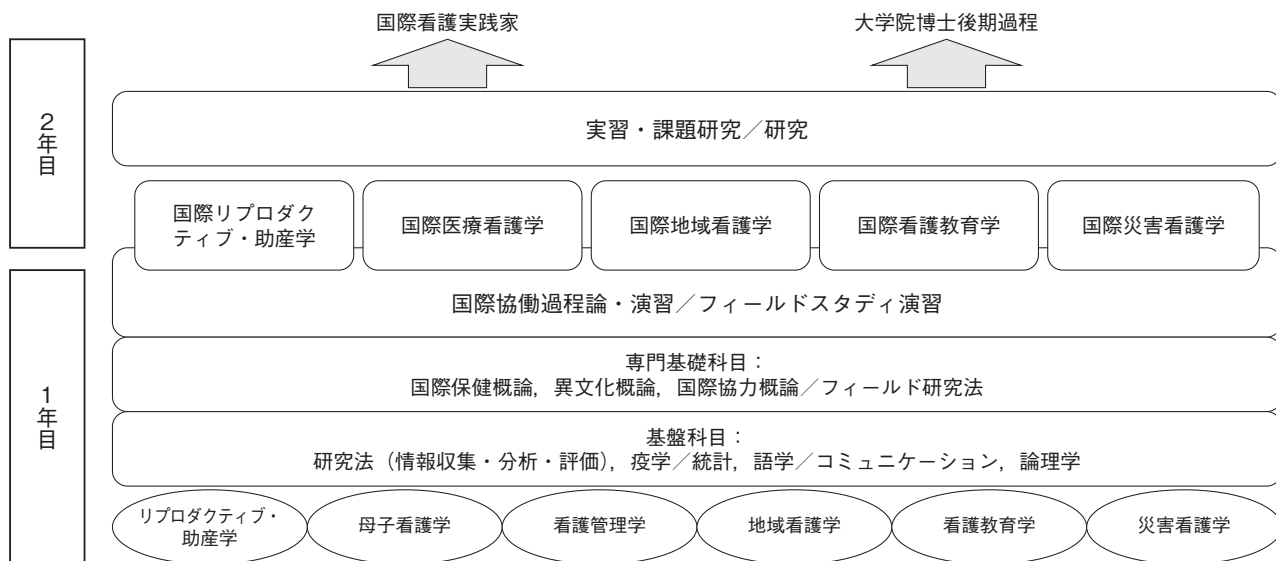


図1 国際看護学・助産学のサブ領域とコア専門・基礎科目試案

表2 修士課程 国際看護学

年次	期	科目名	単位	コース概要／展開
1年次	前期	特論Ⅰ	2	学習目的：グローバル・ヘルス看護専門職として、グローバル・ヘルス上の課題の現状を、健康・人権の格差の視点からとらえ、格差は正のために現在進められている国際的取り組みを理解する。
		演習Ⅰ	2	学習目標：焦点国の概要：地理、人口動態、歴史、産業・経済、教育システム、医療・福祉システム、保健指標と保健政策等をレビューできる。演習Ⅱのセミナーの場で英語で発表できる。
	後期	特論Ⅱ	2	学習目標：国際看護協働者として、それぞれの専門性を基盤にし、受講生が焦点化している国のグローバル・ヘルス上の課題（異文化社会での健康問題）、保健システム・サービス提供上の課題とその改善のための計画立案力を強化する。
		演習Ⅱ	2	学習目標：国際看護協働者として、焦点国の健康問題をアセスメントできる力を強化する。焦点を当てた国において現地調査（フィールドワーク）を行い健康問題や看護活動を観察、調査し、情報を記述・分析する能力を養う。
		特論Ⅲ （上級実践者コース）	2	学習目標：国際看護学における各サブ専門領域；母子保健、公衆衛生看護（Primary Health & Health Promotion）、人材育成、感染症予防、非感染症予防、等、を焦点国・地域に関する既存情報、研究をクリティカルにレビューし、課題改善のアプローチとその根拠を抽出し、Evidence-basedでの国際協働できる能力を養う。
2年次	前・後期	特別看護研究 （修士論文作成）	8	学習目標：焦点化したグローバル・ヘルスの課題を持つ国や地域での看護の研究課題を抽出し、科学的なアプローチを使って、その問題の記述、あるいは問題要因の検証、あるいは改善のための介入方法の開発、さらに、その成果を示すことのできる研究能力を育成する。

アセスメントを行い、特論Ⅱでは、焦点国の重点課題を探求できる基盤理論や関連情報の統合ができる内容とした。演習Ⅱでは、現地において、特論Ⅱでまとめた既存情報の検証を行い、現地の健康課題の重要性とフィールドの研究協力体制等の研究実施可能性を確認した。2年次には、研究計画書を研究科に提出し、研究倫理審査委員会での承認を経て、現地での計画した情報を収集する。後期はデータ分析、考察を加えて、1月末までに提出をする。

### 3. 国際看護研究者のための本学博士課程カリキュラム開発

博士課程の国際看護学は、修士課程におけるカリキュラム開発を基盤に、さらに、グローバル・ヘルス向上に貢献する研究を、自立して実施する能力を強化できるカ

リキュラムを構成した（表3）。博士課程においても、修士課程同様に、焦点を当てている国の健康問題に対して、看護のサブ領域の専門性を基盤に、フィールドの研究者の協力を得て、予備研究から本研究までの複数年の研究活動を通して研究者としての能力を養うカリキュラムとなっている。

### Ⅲ. 国際看護専門職のキャリア開発研究

医師やその他の職種の国際保健・医療職のキャリア開発は難しい現状が課題となっており、看護職においても同様である。日本がグローバル・ヘルスへ貢献するために、継続的国際協力・協働人材を確保するための研究の分担研究<sup>3)</sup>として国際看護職のキャリアパス開発研究を行った。本研究は、ベナーの提唱した技能習得に関する

表3 博士課程 国際看護学

年次	期	科目名	単位	コース概要／展開
1年次	前期	特論	2	学習目標：院生が焦点化した国や地域とそこでの健康問題に関して、健康問題改善への国際貢献ができる専門的知識基盤を、既存の文献や資料・情報を基に形成する。統合した焦点国概要は英語で発表できる。
	後期	演習	2	学習目標：焦点を当てたグローバル・ヘルス上の課題を持つ国・地域・人々を対象とした看護研究を計画立案のための予備研究前のフィールド調査ができる能力を養う。
2年次	前後期	特別演習	4	学習目標：焦点を当てた国・地域の健康課題解決に向けた研究の予備研究（パイロット）を計画し、実施、分析をし、本研究の示唆をえる。
3年次	前後期	特別研究	6	学習目標：予備研究を基に研究計画書を作成し、研究計画書審査を合格し、倫理審査の承認を得て、データ収集・分析・考察し、博士論文を指定された日までに提出し、審査で合格し、自立して研究できる能力を示す。

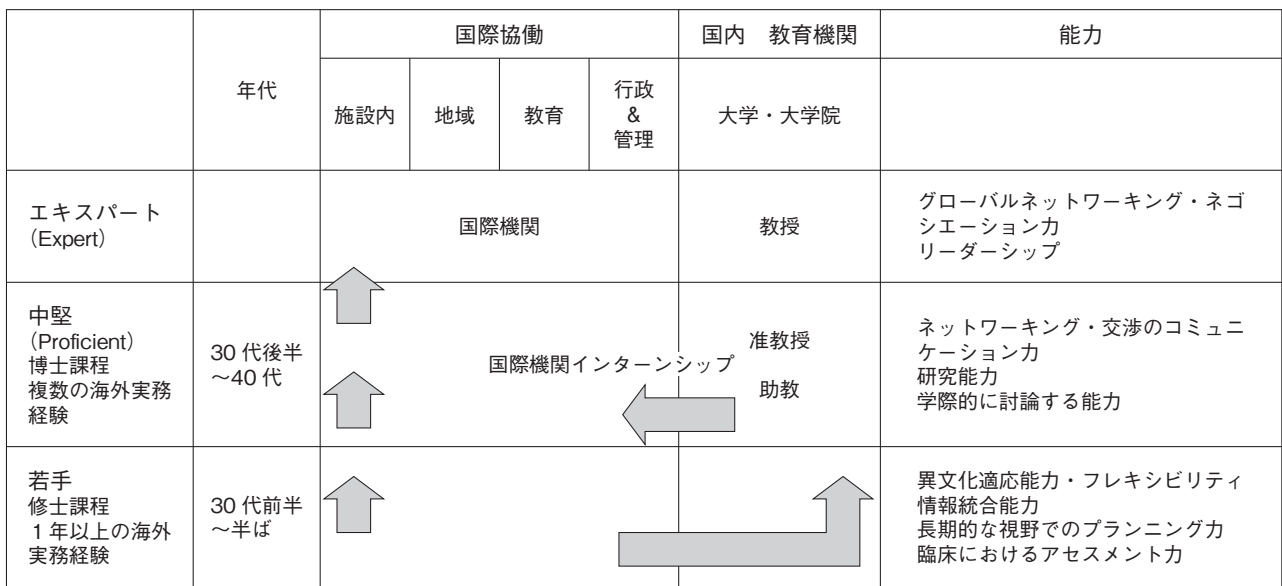


図2 国際看護人材のキャリアパスモデル

ドレイフェス・モデルを参考に、国際看護専門職のキャリアを、若手：修士課程修了後1年以上の海外実務経験者、中堅：博士課程修了後複数の海外実務経験者、エキスパート：中堅以上の能力を持つ国際看護の専門家、と定義した。研究対象は、目的のサンプリングで、海外で看護・助産開発の国際協力・協働を経験した中堅専門家で研究協力を了承した6名を対象とした。研究協力者は、海外経験後、実践、教育と働く場が得られていた。この背景として、看護の高等教育機関が増えていることから、海外実務経験者は、大学院教育を経て、教育機関を拠点として研究活動を通じて、国際協働活動を遂行することが可能であった。本研究成果として、国際看護人材のキャリア開発図（図2）を提案した。

#### IV. 本学大学院国際看護学の10年間の成果と今後の展望

本学の大学院国際看護学専攻において、これまで2015年3月末までに12名の修士修了生と、5名の博士修了生を輩出した（表4）。修士課程の修了生の修了時のキャリアは、国際保健・看護の実践家として海外での

活動に進んだ学生は4名、日本の大学教員4名、大学院進学者3名、日本での臨床は1名であった。現在、博士課程の修了生は、看護系大学において、それぞれの看護のサブ領域の専門性を基盤に国際看護学の教育に関わっている。修士課程の修了生は、若手であり、将来にわたって国際看護専門職としてキャリア開発を希望する場合には、博士課程を経て、中堅、そしてエキスパートとしてのキャリア開発が必要である。

2014年度に本学は聖路加国際大学と改称し、高等教育機関として積極的にグローバル人材の育成の方向性を明確にした。今後、学部から大学院博士課程の充実と、さらにポスト・ドクターコースあるいは国際保健関連コースの開講によって、国際看護専門職が他の国際保健専門職と共に、世界の人々の健康の実現のため、二国間および多国間、あるいは国際機関等を拠点にして国際協力・協働できる専門職育成の高等教育・研究機関としての発展を考えてゆく必要があると展望する。

#### 引用文献

- 1) 田代順子, 長松康子. (2007). 国際看護学開講の経緯と学部一貫コースのコース展開. 聖路加看護大学紀

表4 修士課程・博士課程の国際看護学履修生のキャリア形成概要

入学年度 経験領域と国	修士論文研究でのテーマ	修了年度とその後のキャリア
2005年 助産師/インド	The Practice of Auxiliary Nurse-Midwife at Sub Health Center in Northern India	2006年 NGO ワーカータンザニア
2005年(社会人) 看護師/ホンジュラス	エル・サルヴァドルの国立保健医療機関における看護継続教育プログラムと看護継続教育担当者の教育プログラム実施上の課題	2007年 博士課程進学
2006年 助産師/バングラデシュ	バングラデシュ農村部における女性の分娩ケアニーズ	2007年 大学教員
2007年 看護師・大学教員/	カンボジア王国シェムリアップ州の5歳未満児を持つ母親の育児行動	2008年 JICA 海外青年協力隊
2008年 学部 WPRO インターンシップ/	タンザニア連合共和国都市部にあるセカンダリースクーツに通う男子学生のHIV/AIDSに関する知識と態度	2009年 JICA ボランディア
2008年(社会人) 看護師/中国・台湾	台湾における看護基礎教育課程教員の災害看護教育活動と課題認識	2010年 大学教員
2010年 助産師/	日本におけるムスリム女性の妊娠・出産体験と周産期ケアニーズ	2011年 助産師
2010年 看護師/ウガンダ	Development of Health Lifestyle Model for Prevention of Obesity and Non-communicable Disease and Health Promotion in Rural District of West Java, Indonesia	2011年 博士課程進学
2011年 看護師/ラオス・ベトナム	Perceived Issues on Nursing Competencies of Nurses Who Work at Neuro-surgical Intensive Care Unit in Vietnam	2012年 JICA 専門家ベトナム
2011年 看護師/米国	Simulation-based Continuing Education Acute-care Nursing Workshop Evaluation by Nurses in Urban Areas of Bangladesh	2012年 大学教員
2012年 助産師/インド	Midwives' Intrapartum Monitoring Process and Management Resulting in Emergency Referrals in Tanzania	2013年 大学院進学
2013年 看護師/ドミニカ共和国	ドミニカ共和国の農村部における高血圧と診断された人々の血圧管理に関する認知と行動	2014年 大学教員
	博士論文研究でのテーマ	
2006年度 教員/フィジー, ケニヤ, スリランカ	A Study of Determinants of Intention to Stay among Kenyan Nurses	2009年 大学教員
2008年 看護師/ホンジュラス	エルサルバドルの看護継続教育者の認知コンピテンシー・モデルの開発	2012年 大学教員
2008年 看護管理者/インドネシア	Perceived Working Conditions of Nurses in Indonesia: Multiple Group Analysis using Structural Equation Modeling	2011年 大学教員
2012年 看護師/ウガンダ	Development of Preventive and Promotive Health Behaviors Model for Middle-Aged People with Hypertension in Rural West Java, Indonesia	2014年

要 No.33. 111-115.

- 2) 田代順子, 市橋登美子, 稲岡光子, 他. (2004). 開発途上国における看護技術移転教育プログラムに関する研究, 平成14年度国際医療協力研究委託費研究報告.
- 3) 田代順子, 長松康子, 眞鍋裕紀子, 小黒道子, 他. (2009). 大学院修士課程の「ウエメンズヘルス・助産・看護人材開発協力学」のカリキュラム, 教材開発研究. 平成20年度厚生労働省国際医療協力研究委託費報告

書.

- 4) 田代順子, 長松康子, 小黒道子, 眞鍋裕紀子. (2012). 我が国の国際保健協力人材の継続的確保に関する研究の分担研究, 平成22年度国際医療研究開発費報告書.

#### 参考文献

- 井部俊子監訳. (2005). ベナー看護論 新約版一初心者から達人へ. 医学書院.